



子ども・子育て会議だより



智頭町教育委員会事務局 平成30年2月

平成27年4月にスタートした「子ども・子育て支援新制度」に基づいて策定された“智頭町子ども・子育て支援計画”に掲げる各種事業について検討審議するため、平成29年度子ども・子育て会議を開催しました。

智頭町では、子ども・子育て支援法に基づき、幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進していくため、平成27年3月に策定した「智頭町子ども・子育て支援事業計画」に関連する事業について、年度ごとに進捗状況の報告及び点検を行うこととしています。

○ 新子ども・子育て委員紹介

15人の委員と3人の教育委員会事務局で構成します。

子どもの保護者代表	・岸本 克己 ・加賀田 大輔 ・西村 早栄子 ・葉狩 佐知子	ちづ保育園 PTA 会長 智頭小学校 PTA 会長 森のようちえん代表 ほほえみママサークル代表
子どもの支援に関し 学識経験のある者	・小宮山 富美子 ・草刈 満男	主任児童委員 智頭町公民館連絡協議会長
子どもの教育、保育 又は養育に関する事 業に従事する者	・岡村 篤朋 ・米井 ますみ ・石井 弥生 ・山崎 理恵 ・藤原 加奈 ・松村 典子	教育委員会指導主事 ちづ保育園 園長 子育て支援センター所長補佐 養育支援家庭訪問員 福祉課保健師 智頭町スクールソーシャルワーカー
事業主を代表する者	・林 良久	智頭町経営者協議会代表
事務局	・國岡 厚志 ・國岡 秀憲 ・尾坂 智美	教育課長 主幹 主任

○ 会長(小宮山富美子)あいさつ(要約)

近年、子どもと家庭をとりまく環境は大きく変化している。子どもたちの安心した生活と健全な育ちを支えるため、智頭町子ども・子育て支援事業計画の内容を審議しながら、今後の子育て支援事業がさらに充実するよう、会議の中で議論していただきたい。

【協議内容】

1) 智頭町の子ども(家庭)を取り巻く社会環境の変化について報告(統計データ)

[人口の推移]

15歳未満の人口は、平成16年から25年までの10年間で約350人減少したが、平成25年以降は微増傾向にあり、移住定住施策とともに保育サービスの充実が求められる。

[出生率]

1人の女性が一生の間に産む子どもの数(特殊合計出生率)は平成22年以降、県平均を下回る傾向が続いている。

[就労状況]

全国的には30~39歳で出産・育児等の要因で落ち込んでいるが、智頭町は女性の就労率が高く、出産後の早い職場復帰がうかがえる。

[家族構成の推移]

国勢調査データ(H22・H27)の比較では、3世代同居世帯が20%減少している。「父親と子」の世帯が40軒、「母親と子」の世帯が285軒と、いずれも増加傾向にあり、ひとり親世帯の増加による子育て環境への影響が懸念される。

2) 「智頭町子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況を報告

①子どもの健やかな育ちを保障する

	事業計画	推進施策	進捗状況	H31年度目標
1	就学前教育・保育の充実	智頭町保育園一園化の実現	○	H29.4月ちづ保育園が開園。0~5歳児まで連続した保育体制を実施
		教育・保育の質の向上	○	保育士の資質向上及び発達保障の充実
		森のようちえん事業の支援	○	継続実施
		認定こども園の普及	—	ニーズ把握
2	地域における子育て支援サービスの充実	地域子育て支援センター事業の推進	○	拡充に向けた検討
		ファミリーサポートセンター事業の推進	○	支援会員を増やし、支援内容の充実
		乳児家庭全戸訪問事業の推進	○	継続実施
		ブックスタート事業の推進	○	継続実施
3	要保護児童への対応などきめ細かな取組の推進	児童虐待防止対策の充実	○	連携強化
		ひとり親家庭への自立支援の推進	○	継続実施
		障害児施策の充実	○	継続実施
		養育支援訪問事業	○	継続実施
	子育て短期支援事業	○	継続実施、啓発強化。	
4	子どもの人権の尊重	人権・同和保育の推進	○	継続実施

② 親と子の心身の健康を守るために

	事業計画	推進施策	進捗状況	H31年度目標
1	親と子の健康の支援	妊産婦保健相談等	○	継続実施
		乳幼児健診	○	継続実施
		乳幼児保健相談	○	継続実施
		子育て講座	○	継続実施
		小児医療の充実	○	継続実施
		各種予防接種	○	継続実施
		虫歯予防フッ化物洗口事業	○	継続実施
		離乳食講習会	○	継続実施
2	「食育」の推進	食育推進事業	○	継続実施
		食物アレルギー対策の推進	○	継続実施
		心身の健全な意識の育成	○	継続実施
3	思春期保健対策の充実	学校生活適応支援員の設置	○	継続実施
		心の教室相談員の設置	○	継続実施
		スクールカウンセラーの配置	○	継続実施
		子どもを取り巻く有害環境対策の推進	○	継続実施

③ 子育て家庭を支援するために

	事業計画	推進施策	進捗状況	H31年度目標
1	保育サービスの充実	乳児保育	○	ニーズ把握、継続実施
		延長保育	○	ニーズ把握、継続実施
		一時預かり事業	○	ニーズ把握、継続実施
		障がい児保育	○	ニーズ把握、継続実施
		土曜午後保育	○	ニーズ把握、継続実施
		病児・病後児保育	○	ニーズ把握、継続実施
		第3子以降保育料無料	H27年度 完全無償化	継続実施
		第2子以降保育料軽減	H28年度 完全無償化	継続実施
2	情報提供・相談体制の充実	子育ての情報提供・相談体制	○	継続実施

3	教育環境の整備	小中学校図書館 保育園図書室の充実	○	継続実施
		総合的学習の時間の推進・ボランティア体験活動・職場体験活動	○	継続実施
		国際交流事業	○	継続実施
		地域ボランティア	○	継続実施、地区公民館の機能強化
		特別支援教育総合推進事業	○	継続実施
		家庭教育支援チームの設置	○	継続実施
		4	家庭や地域の教育力の向上	すくすくすぎっ子の活用・啓発
ノーテレビデーの推進	○			継続実施
5	子育てしやすい就労環境の整備	ワーク・ライフ・バランスの啓発	○	継続実施
		地域型保育事業の推進	○	継続実施

④ 地域ぐるみで子育てするために

	事業計画	推進施策	進捗状況	H31年度目標
1	児童の健全育成	放課後児童クラブの充実	○	施設整備、環境の充実
		児童館活動の充実	○	継続実施
		公民館事業の充実	○	継続実施
		スポーツ振興と環境整備	○	継続実施
2	安全・安心なまちづくりの推進	子ども110番	○	継続実施
		交通安全街頭指導	○	継続実施
		青少年育成事業	○	継続実施
		あいさつ運動	○	継続実施
3	環境・自然を大切にするまちづくり	木育推進事業	H27年度 新規	継続実施予定
		ウッドスタート事業	H27年度 新規	継続実施予定
		児童公園・親水公園の整備	○	継続実施
		親水公園連絡協議会の事業	○	継続実施
		環境美化への積極的参加の推進	○	継続実施

2) 新規事業について

事業名	新規/拡充	事業概要	活動実績
智頭町総合戦略事業「育みの郷」構想事業『いのちね』	H28 新規	妊娠、出産、子育て、思春期、更年期等、女性特有の不安・悩みなどの相談。	H28.5月、保健センター内に「いのちね」を開設。女性の悩みに寄り添う活動として主に産前産後の適切な対処方法や子育て不安への相談・対応のほか、いのちの授業、子どもの手当講座、ヨガ教室を実施。
妊婦歯科健康診査	H28 新規	ホルモンバランスや唾液の変化、食生活の変化、つわり等が影響し、むし歯や歯周病にかかりやすくなる妊娠中にむし歯や歯周病の予防を行う。	6名に実施
新生児聴覚検査の費用助成	H28 新規	早期に適切な支援を行う必要がある聴覚の状態を確認するための検査を受けやすくするため、費用助成を行う。	21名に実施
「おせっかいのまちづくり」宣言	H27 新規	町民が肩を寄せ合い共に支え合いながら地域の人々が心も暮らしも豊かに智頭らしく生きていくまちづくりを目指す。押しつけにならないよう気をつけながら、少しのおせっかいを始めることで、「安全・安心な住みやすいまち」をつくることを目的とする。	おせっかい標語とマスコット(マグネット)を作成し周知、啓発。広報ちづに「今月のおせっかい事例」を掲載
智頭町トップアスリート育成支援事業	H27 新規	智頭町の代表として県外のスポーツ大会に出場する子どもたちの活動を支援することで、町全体のスポーツ振興及び人材育成に寄与することを目的に交付。	水泳1名、空手4名、野球1団体、バドミントン1名の4競技に助成金を交付。今後も事業を継続し、さらなるスポーツ振興と人材育成に努める。
智頭町学習支援事業	H28 新規	生活困窮状態にあるなど、生活課題があり支援を必要とする家庭に育つ小・中学生に対し学習支援を行う。	小学生7名、中学生4名に放課後の学習支援を実施。
第2子以降保育料軽減	H28 新規	第2子以降の保育料を無料化し、子育て世代の経済的負担の軽減を図る。	在園児199人中、対象者78人
智頭町森のようちえん保育料軽減事業	H28 新規	保護者と一緒に暮らす第2子以降の児童(智頭町在住)の保育料を軽減することで、子育て家庭の経済的負担を減らし、子どもを生き育てやすい環境を整備する。	在園児16人中、対象者10人
智頭町わが家で子育て応援給付金事業	H29 新規	1歳未満のお子さんを自宅で子育てされている家庭に給付する。乳幼児期の親子のふれあいや子どもとの密接な関係を築き、充実した子育てと、経済的負担の軽減を図る。(最大10ヶ月30,000円/月)	対象者62人中、受給者35人

3) 意見交換「地域と行政が協働した子育てのあり方(関わり方)について」

少子高齢化と社会情勢の変化により、子育て世帯の生活文化や価値観も多様化している。現在の子育てニーズに応えるための支援のあり方について話し合った。

ア) 子育ての悩みや困りごとに寄り添う(情報発信・ニーズ把握)

- ・乳幼児の母親にとって、子育て支援センターは情報収集や心身が休める居場所であり、とても助かっている。
- ・午前9時頃～午後3時頃まで支援センターを利用される家族も多く、満足度が高い。
- ・毎月、ママサークル主催のイベントもあり、母親同士の交流も盛んに行われている。
- ・智頭町内に子どもと遊べる公園がないのが寂しい。
⇒公園遊具は莫大な費用がかかり、新たな公園をつくることは難しいが、新たに建設を予定している図書館施設では、子育て世帯が集える機能も検討している。

イ) 社会情勢の変化への対応

- ・共働きや核家族化、離婚率の増加に伴い、労働過多や貧困が招く子どもへの影響を懸念
- ・「家族構成の変化」での報告のうち、ひとり親世帯でも特に「父親と子」の世帯が40軒もあることに驚いた。これらの家庭の実情を把握し、支援策を考える必要がある。

ウ) 「昔はよかった」今と昔の変化について

- ・昔は近所の子どもだけでも同年代の友達がたくさんいて、学年を越えて一緒に遊ぶ中で上下関係(社会秩序)やルールを学んだ。モノがない時代、工夫して遊びを考えていた。
- ・放課後は山や川で日が暮れるまで遊んだが、今は子どもが孤立化し、少人数では危ないということもあり、「禁止事項」が増えた気がする。
- ・地域の名物おじさんが親に代わってしつけをしてくれることもあったが、今は「人の家のことに干渉しないほうがいい」という風潮があり、おせっかいが機能しにくくなっている。
- ・青年団が無くなり、若者で集まる機会も減っている。危機感を感じるが、子育て世帯は自分たちの生活に必死で、余裕がないのが実情。

ウ) その他

- ・今年はインフルエンザが流行し、病児保育の利用も増加した。子育て世帯の育児と就労のニーズに応えるためにも病児保育サービスの充実の検討も必要となるが、智頭病院小児科(地域医療)を残し、支えるための取り組みも必要となる。
- ・今年、ちづ保育園として一園化したが、保育士が不足している。これからの子育て世帯が住みやすいまちにするために、このような話し合いの機会を重ね、皆さんの一層の協力をいただきながら、子育てサービスの充実を図っていきたい。

